

「西浦馬場の辻」  
(西浦町南・北馬相)



現在の景色

西浦町には、古代の古墳が残されていますが、古墳が作られたころの西浦は水面が高く、海沿いの平地は水面下でした。また、当時の西浦は平地が少なく水利も悪いので、人が多く住める環境ではありませんでした。しかし、鎌倉時代以降の海退現象により徐々に海が干上がり、明治時代以前に今の海沿いの平地が形成されたようです。

三方を海に囲まれた西浦は、江戸時代になって幡豆から漁法を習ったと言い伝えがあります。半農半漁の町ですが、大阪城や名古屋城の石垣を出した石材産地としても知られています。

明治時代以降は港湾整備が進められたため漁業が発展しました。1936年(昭和11年)には三河鉄道が蒲郡-鳥羽(幡豆町)を開通したのを機に西浦駅ができ、さらに1953年(昭和28年)には温泉が発見され、「西浦温泉郷」としてにぎわいを今に伝えています。

このように「馬場の辻」は古くから東西文化の交流の中心地として、加えて今は県内外からの温泉客や魚市場への入口としての顔を持っています。

この絵は、西の吉良・幡豆から来た突き当りで、背後は愛宕山です。



樹木医・技術士(建設部門・環境部門) 原野 幹 義

「きれいな花にも毒がある・エゴノキ」

エゴノキを見たことも聞いたことも無いという人は多いかと思いますが、実は関東ではファンがとても多い人気の木です。桜の花の饗宴もおさまり落ち着きを取り戻した五月、さつき晴れの青い空のもとに咲く花は、純白の五弁の花びらとクリーム色の雄しべのコントラストが優しく、和風にも洋風にも合い、よく玄関先に植えられます。

地面から細い数本の幹を立たせる株立ちで仕立てられることが多く、武蔵野の雑木林から創作された「雑木の庭」では主役のひとりで、幹の立ち姿、繊細な枝先、新緑と秋の黄葉そして花姿が愛でられます。花は横に広がった枝の下面に群れて咲くので、花の盛りが過ぎて地面に散ったたくさんの花殻で初めて気付く人も多いようです。

新緑はとても个性的で美しく、小指の爪程度のとき、細い枝先に並ぶ明るい緑の葉っぱたちは、とてもかわいらしいです。

昔、少年漫画の「釣りキチ三平」で東北の川では木の実をつぶして川魚を麻痺させて捕る「毒流し漁」(現在は禁止されています)の話がありました。毎日のようにタマと竹みで小川の魚を捕っていた私は、自分が単純な漁師のように感じ、どんな木の実なんだろう、魚は死んじゃうのかな、毒に当たった魚は食べられるのかな、などとずっと不思議に思っていました。それがこのエゴノキでした。

目次 Contents

市民の目で見えた市役所の仕事は	3
赤い電車のある街	4-5
子育て家庭優待事業がはじまります	6-7
医療費助成制度をお知らせします	8
健康づくりの「標語・イラスト」大募集!	9
G I オールジャパン竹島特別 開設53周年記念競走	10
児童手当などの申請をお忘れなく	11
MY スクール・図書館だより	12
まちの達人・読む水族館	13
遊びにおいでよ児童館へ	14
健康カレンダー	15
市民相談	16
いちおし逸品	17
お知らせ	18-29
クイズまちがいさがし・編集後記	30
ふれあい宅配便	31
脱メタボリック宣言 in 蒲郡	32
こどもミュージアム	32

